

【南相馬市】

【校務DX計画】

南相馬市教育委員会では、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するための対応を行うこととする。

1. 本市における「校務DX」への取組み状況

令和6年度の文部科学省が実施した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果による本市の状況を踏まえ、本市が課題と考える次の事項について、各学校と連携を図りながら校務DXの推進を図っていくこととする。

(1)クラウドサービスの活用

教職員には、福島県が県域でドメイン運用する Google Workspace のアカウントが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドサービスが利用できる環境にあります。

校務DX化チェックリストの結果に基づく本市の状況は、校内におけるクラウド活用は徐々に進んでいるものの、保護者や児童生徒を対象とした活用は進んでいない状況であることから、クラウドサービスを積極的に活用し、業務の効率化、時間の有効活用、ペーパーレス化を図る。

(2)ゼロトラスト環境の構築

学校で利用するネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と児童生徒が教育活動で使用する「学習系」の2つに分離し、児童生徒がインターネットを経由して個人情報を含む校務系ファイルサーバにアクセスできない構成としています。

今後は、情報技術の進展とさらなる教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、現教育情報ネットワークの更新時に校務系・学習系ネットワークの統合を見据えながら、ゼロトラストの考え方も含めたセキュリティ対策の調査・研究を進める。

(3)教育情報セキュリティポリシーの策定

本市教育委員会及び市立学校においては、南相馬市情報セキュリティポリシーを準用しており、ゼロトラストセキュリティの実現を目指すため、文部科学省の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を参考に、教育情報セキュリティポリシーの策定を行う。

(4)校務における生成AIの利活用

文部科学省が示した「初等中等段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」を遵守したうえで、校務での利活用を行う。

(5)次世代型校務支援システムの検討

本市の市立学校においては、令和

福島県において、「パブリッククラウド上で運用できる次世代校務支援システム」を県内市町村とともに導入するための協議を令和7年度までに開始することから、県の動向を注視しつつ、次世代型校務支援システムの研究を進める。